

貸金庫

銀行と顧客の間にあるの営業店舗の売却交渉を水も下で進めていたのだ。INの首脳はさし迫る危機の暗やみの中で、かすかな希望を感じて財

それを新銀行への出資に振り替えてもらうとの皮算用もあった。破たんした兵庫銀行の受け皿として、金融機関や地元経済界などの出資で設立されたみどり銀行が、新銀行のイメージと重なっていた。

ただ、北洋銀や札幌銀との合併にしろ、みどり銀行方式の合併にしろ、みどり銀行方式の合併にしろ、資金繰りを痛める三人の首脳を前に、同省の中共省審議官は最悪でも新銀行方式でいけるよ定せざるを得なかった。その準備を進めよう。頭張ってください」と、疲れた表情の河谷らを励ました。

別の同省幹部は、兵庫銀からの業務を引き継いだみどりの銀行による救済合併でも、

十月中旬からは拓銀に対する大蔵省の金融検査が始まった。十五人の検査官が支店長や審査担当者を順番に呼びつけては貸し出しの内容などを精査し、不良債権の額を積算省を訪れた。道銀との合併がしていった。その作業を断るような気持ちで見守る拓銀幹部。検査の結果次第で、拓銀の処理策が決まる算段だったからだ。

しかし、時に残忍な評価を下す市場に翻弄（ほんろう）されながら、拓銀の命運は最も恐れる方向に向かおうとした。それは、拓銀が最後の意地を振り絞って描いた単独の生き残りでも、道銀以外

検証 崩拓銀

<6> 10.10.11

大通公園の木々が影を長く落とし、冷たい風が晩秋の訪れを告げていた。昨年十月下旬、拓銀本店五階のロビーに、小声で話し込む二人の姿があった。

大蔵省の「北洋銀の方がいいんじゃないか。札幌銀では規模が小さすぎて荷が重いだろう」と。

「北洋銀の方がいいんじゃないか。札幌銀では規模が小さすぎて荷が重いだろう」と。

「北洋銀の方がいいんじゃないか。札幌銀では規模が小さすぎて荷が重いだろう」と。

シナリオ

大蔵省の「北洋銀の方がいいんじゃないか。札幌銀では規模が小さすぎて荷が重いだろう」と。

「北洋銀の方がいいんじゃないか。札幌銀では規模が小さすぎて荷が重いだろう」と。

「北洋銀の方がいいんじゃないか。札幌銀では規模が小さすぎて荷が重いだろう」と。

「北洋銀の方がいいんじゃないか。札幌銀では規模が小さすぎて荷が重いだろう」と。



「新銀行方式」も模索

業の出資で新銀行を設立し、も検討された。増資の要請にシナリオの買取で名を権（要注意先債権）は極力、た。敬称略、同書は当時拓銀の業務を移管させる構想、生保などが応じてくれれば、はせたオランダの金融資本、預金保険機構に買取っても

「第2分債」終幕が拓銀を待ち受けていた。敬称略、同書は当時拓銀の問題取材班

「救済合併なら預金保険機構からの資金援助もあります。規模の大小は問題じゃありません。札幌銀はうちと電算システムが同じ

表向き道銀との合併を前提に、拓銀は千五百億円の増資

さらに、大手生保や道内企